

目次

底光りする世界	武井 敏……………1
三つの宝を守り続ける	幅谷 啓子……………2
碌山忌記念講演	姜 尚 中……………3
アートが拓く地域力	
相馬黒光没後七十年記念、安曇野市制施行二十周年記念	澤田 裕 美……………1
シンポジウム「相馬黒光をめぐる」	廣 澤 久美子……………1
	平 沢 重 人……………7
	武 井 敏……………7
相馬黒光没後七十年記念、安曇野市制施行二十周年記念	
相馬愛蔵・黒光との思い出を孫・四方満氏に聞く	四 方 満……………25
ストロブを囲んで	
横山拓衛さんを語る	……………29
追悼	
萩原碌山研究者仁科惇先生の死を悼む	……………42
中原悌二郎の写真コレクション(五)	武 井 敏……………48
令和七年 日記抄	……………54
寄贈作品資料	……………55
サポートメンバースhip参加法人	……………56
令和八年度企画	
令和七年度役職員ほか	

三つの宝を守り続ける

館長 幅谷啓子

碌山美術館は多くの宝がありますが、その中に建築物があります。碌山美術館と言えば、まず建物の碌山館が紹介されます。これは、スペインの建築家ガウディを日本に初めて紹介した今井兼次さんが設計したものです。今井さんに設計を依頼したのは、碌山美術館設立実行委員で東京芸大石井鶴三教室の助教授であった彫刻家笹村草家人によります。今井さんというクラウドファンディングで県下の児童生徒の寄付をはじめ、穂高中学校の生徒によるレンガや瓦運びなどの労働奉仕で完成いたしました。一九五七年（昭和三十二年）に完成した碌山館は二〇一〇年（平成二十二年）に国の登録有形文化財（建築物）に指定されました。

今年度、二棟を登録有形文化財として申請いたしました。それは笹村草家人がソ連時代のイルクーツクを旅して、古いロシア風木造家屋の丸木の校倉式（あぜくらしき）とでもいう建物から想起した、当時の展示棟であるグズベリーハウスと高床式の収蔵庫です。こちらも職員の横山拓衛さん他大勢の労働奉仕で建てられました。

申請は、信州大学梅干野成央研究室と安曇野市教育委員会の二年に及ぶ調査と協力により可能となったものです。

展示室の「碌山館」、休憩室の「グズベリーハウス」、収蔵庫の「美術の倉」はそれぞれ個性的でインスタ映えする建物で被写体として大変人気です。これからも皆様のお力をお借りしながら永く保存出来たらと願っております。